

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

グローバル社会を生き抜く力だけでなく、真のリーダーとして世界を舞台に活躍でき、人類に貢献できる人材育成をめざす

- (1) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力
  - (2) 多文化、異文化を受け入れることのできる深い包容力と鋭い人権感覚（心のグローバル化）
  - (3) 5年後、10年後を見通す洞察力と世界を見据えた視野の広さを併せ持ち真に世界でブレイクスルーできる力
  - (4) 生徒の希望する進路実現が図れる学校として、生徒・保護者・地域の願いに応えられる学校をめざす。
- また、情報発信に努め、広く府民に理解される学校にする。

## 2 中期的目標

本校の教育活動の中心である国際教育と理数教育の2本柱のもと、生徒たちの学習意欲を高めつつ、生徒たちの将来に向けた夢と希望の実現をめざして、「国際社会に貢献できる人材」と「科学技術立国のわが国をリードする人材」の育成を図ることとする。下記の中期的目標を達成したい。

## 1. 学力向上の取組み強化

国際科学高校に改編後、国公立大学への進学者数は現浪合わせて50～70人で推移していた。しかし、ほとんどの生徒が入学時に国公立大学を希望していることから、生徒の進路実現が図れるよう学力向上の取組みをいっそう強化する。目標として国公立大学合格者数は前年度比で25%増をめざす。

## (1) 「わかる授業」をめざして、教科指導力を向上させる。

授業アンケートの活用をさらに図るとともに、今後予想される新任教員や若手教員の増加に対応して教科指導力の向上をめざす公開授業や研究授業等を実施する。また、構築した無線LANと導入するタブレット型PCを活用した指導方法の工夫も行う。

## (2) 進学講習の充実を図る。

進路実現に向けた校内での進学講習を充実させるため、2年生からの講習を企画するほか、主要5教科での講習の開始をめざす。また、自習室の活用をさらに充実させる。今までの土曜日の教育産業による北畠講習を積極的に推奨し、2クラス同時開講と、のべ100名以上での開講を目標にする。

## (3) 引き続き、自習室の活用促進を図り、早朝・放課後での利用時間の拡大と利用者数の2割増をめざす。特に1年生・2年生への利用拡大を工夫する。

## 2. 国際・科学高校としての取組み強化

## (1) TOEFLに力点を置く。本校は日常的に英語を使う環境があり、英語でのディベート、プレゼン、スピーチ等の国際・科学高校としての英語学習を行っている。今後府の教育方針に準じ、本校が行っている教育と相まって、TOEFLに向けた教育を一層推進する。成果としてはスコア80以上を4名、60以上を25名とする。また保護者の要望の強いTOEIC対策も継続する。

## (2) 国際交流・海外語学研修の拡大維持

本校の国際交流活動や海外語学研修には生徒・保護者の期待が特に大きい。平成24年度から拡大したアメリカ・シアトル語学研修、カルフォルニア交換留学、ニューヨーク交換留学、アジアフィールドスタディツアーの新規4事業を維持継続するとともに、従来から行っている、オーストラリア語学研修や韓国（チョンダム高校）、台湾（中山女子高級中学）との姉妹校関係をさらに発展させる。また25年度より始まった同窓会の支援によるケンブリッジ語学研修も含め、海外8研修の充実をめざす。全員参加の台湾スタディツアーを除く、海外研修の参加者の目標を100名以上とする。また海外からの留学・訪問等も積極的に受け入れる。また、直接海外の大学へ進学できるよう指導に努める。

## (3) SSHの更新と英語力を結びつけた取組みの強化

平成24年度のSSH更新を受けて、これまでの科学教育の取組みに英語教育をリンクする。課題研究の成果発表を「使える英語力」を駆使した実践をめざすほか、国際科学発表会の毎年開催を維持し、国際的な視野で語学力の向上と科学的探究活動の取組みを充実させる。

## 3. 人権教育の視点での豊かな国際感覚の育成と、自律心の醸成

## (1) ユネスコスクール加盟の特色を生かした平和学習・人権学習の充実

本校の多彩な活動の中で、平和学習と人権学習をメインとするESD教育の実践をめざす。特に、ルーツを海外にもつ生徒や障がいのある生徒などの人権を守る教育を維持し、海外での国際交流や国際科学発表会の実践を通して豊かな国際感覚の育成を図り、多文化共生の理念を学ばせる。

また今年度行われる、ユネスコ世界大会を成功させるために貢献する。

## (2) 国際人として求められるマナーの向上と社会的規範意識の醸成

生徒の自主自律を更に進め、国際人として必須のマナーやルールを遵守する姿勢を育成する。具体的には、昨年からの遅刻者を減らす運動を維持し、平成23年度から順次実施してきた標準服の導入が本年度に完結することから服装指導と頭髪指導の強化を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの提言内容】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年3月実施分]	学校協議会からの提言内容
<p>【結果】生徒の7割以上肯定的解答は49問中36項目、8割以上は19項目、保護者の回答回収率は63%で、そのうち肯定的意見が7割以上が37項目、8割以上が27項目であった。</p> <p>生徒の肯定的回答率が高いもの</p> <p>2. 自分の学級は楽しい (91%)</p> <p>3. この学校には他の学校にない特色がある。(93%)</p> <p>保護者の肯定的回答率が高いもの</p> <p>3. 学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている。(93%)</p> <p>5. この学校は他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。(95%)</p> <p>21. 学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている。(93%)</p> <p>26. 子供は学校に友達がいると言っている(96%)他90%台が49項目中8項目、80%台が19項目。</p>	<p>第1回学校協議会(6月20日(金)実施)より</p> <p>最大の特色である英語教育、SSHの教育を推し進めてほしい。海外研修や海外への進学は、費用面で保護者の負担となる。学校側からの援助などを考えてはどうか。生活指導については、遅刻・挨拶などに問題がある。それらが学習への妨げとなっているという意見もある。目標を掲げて、生徒に厳しく対応する必要がある。予備校によるセンター対策講習の成果は上がっているのか、振り返ってほしい。</p> <p>第2回学校協議会(10月10日(金)実施)より</p> <p>4回遅刻すると指導、とは甘いのではないか。遅刻するのは特定の生徒か。もっと遅刻指導を厳しく。他校の取り組みも参考にしてほしい。新しい指導が始まったということなので、3月の総括を楽しみにしている。現役で進学する傾向が高まっているという話を聞くが、浪人生は減っているのか?(昨年度より減っている。)生徒も教員も忙しいと思うが、多様な取り組みが本校の特色であるので、頑張してほしい。</p>

<p>【分析】生徒の「学校・クラスが楽しい」という意見を非常に多くの生徒が持っていることがわかる。また、総合科学科で国際交流を、国際文化科で実習体験を希望する生徒が増えていることから、お互いの学科の特色を実感しているものと思われる。</p> <p>また保護者の回答回収率は6割を超え、そのうち8割を超える肯定的回答が27項目にのぼることから、大部分の保護者が本校の取り組みに対する理解・賛同を示していただいていることがわかる。その一方で「学校からの文書連絡」や「学校の設備面」については肯定的意見が少ない。学校からの発信文書はHP等で公開し、保護者の方にも見ていただけるようにしている。また、設備面の課題は学校だけでは解決できないものもあるが、学校で可能な範囲で対応していきたい。</p>	<p>第3回学校協議会（3月10日（火）実施）より</p> <p>厳しいときには人は良く学ぶ。「楽しい」だけでいいの。文系の国公立進学は健闘しているが、理系はどうか。SSHの取り組みの成果が表れているのか。遅刻指導について、入試結果を追うあまり学校生活をおろそかにして塾や予備校に行っているのではない。学校を休んで家で勉強したり、寝坊したりしているのか。アルバイトの実態調査をして遅刻や学力との関連を調べてほしい。さらなる向上心を持たせるために子供に意識改革を促すなら、先生が本気になることが大事。学校の特色を出すのは大変だが、進学実績を上げることが大切。保護者の立場から言えば、親も遅刻指導に協力すべき。家庭内のしつけが大切。また、先生と生徒との関係で、ため口で接する生徒もいるようだが、はじめをつけてほしい。</p>
--	--

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>学力向上の取組強化</p>	<p>(1)「わかる授業」をめざして、教科指導力の向上 ア 授業アンケートの活用と公開授業の促進  イ. ICTを活用した授業の推進</p> <p>(2)進学指導の充実 ウ 放課後、土曜日の補習・講習の充実  エ. 自習室の活用を推進</p>	<p>ア・SIC(住吉改革委員会)内に指導力向上委員会を設置し、授業アンケート分析を踏まえた改善検討策の策定を行い、全教員への意識啓発と公開授業の定例化と複数化を図る。 ・CALL/LL を最大限活用し、タブレット型PCの活用をも全校的に推進。そのための活用講習会も開催。  イ・若手教員への教科指導力向上の公開授業を推奨し、首席主催の指導力向上委員会を開催し、若手への組織的支援体制を強化する。  ウ・教員による放課後、土曜の補習・講習会を全体的に進める。主要5教科の実施をめざす。 ・PTA主催の教育産業による土曜講習会を本年度も実施し、2クラス同時開講をめざす。  エ・現在の本館自習室は3年生が使用、一年生・二年生の北畠会館自習室を更に活用する工夫を行う。</p>	<p>ア・学校教育自己診断、授業アンケートで授業がわかるの回答率80%を目標。 ・公開研究授業を主要5教科全科目での開催を目標。 イ・タブレット型PCの活用教員率、30%を目標。 ・若手教員の研修満足度を80%以上を目標。 ウ・放課後等の進学講習・補習の開催を5教科で実施。 ・PTA主催の教育産業による土曜講習会を本年度も実施。参加生徒数は100名以上を目標。 エ・一年・二年の北畠会館自習室活用を2割増を目標。</p>	<p>ア。授業アンケートの結果で、「授業がわかる」ことに関する項目の平均は4点中3.22で8割を超える。学校教育自己診断において生徒の7割以上肯定的解答は49問中36項目、8割以上は19項目、保護者の回答回収率は63%で、そのうち肯定的意見が7割以上が37項目、8割以上が27項目であった。公開研究授業は5月に実施。さらに10月～11月の期間、教員同士で相互授業見学を実施し、見学報告書を提出させた。授業力向上の意識付けの点で、若手だけでなく、ベテラン教員にも効果があった。◎ イ。タブレットパソコンは外国語科の教員が日常的に使用。○ ウ。講習・補習は各学年とも早朝、放課後を利用して行っている。土曜講習会は約70名が参加。終了後のアンケートでは「受講してよかった」との意見が多く、次年度も継続の予定。○ エ。本館自習室は平日の早朝、放課後、土曜日と3年生が常に利用できる体制を整えている。1、2年生に関しては集計中。(未)</p>
<p>国際科学高校としての取組強化</p>	<p>(1)グローバル人材育成の強化 ア TOEFL 対策の Super English の開講を維持 イ土曜 TOEIC 講習の維持とハイスコア生徒の育成 ウ使える英語力の向上と英語ディベート等の充実  (2)国際交流・海外語学研修の充実 エ これまでの8事業の維持と円滑な運用  (3)SSHと連携した取組の実施 カ SSH 事業の海外校が参加する国際科学発表会</p>	<p>ア・TOEFL 対策科目「Super English」に生徒60名以上、昨年度に続いて2クラス以上開講を目標。 ・受講者の平均スコアを府平均の10点越えを目標とし、80点台生徒を4名、60点以上25名を目標。 イ・保護者の要望により土曜 TOEIC 講習会を実施する。 ・受講者の平均スコアを550点越えを目標とし、また、700点台生徒を複数育成する。 ウ・英語ディベート大会の公開を行い、他校とのディベート大会の開催を目標。英語ディベートの高校への普及に努める。  エ 労力対効果を考慮しながら、より実績が上がるよう工夫する  カ・SSH 事業として韓国・台湾から高校生・教員を招聘する国際科学発表会の開催を継続し、その内容の充実をめざす。 ・国際科学会議に向けた本校生への科学英語力の強化を図る。</p>	<p>ア・TOEFL 対策科目の開講を2クラス以上をめざす。 ・平均スコアが府平均を超え80点台4名、60点以上を25名を目標。 ・保護者の要望により実施 ・TOEIC の平均スコアが550点を超えることが目標。 ・700点台取得者複数育成。  ウ・英語ディベート大会を実施し、他校からの見学者を勧誘。複数校の参加を目標。 エ・生徒の満足度90%以上  カ・韓国・台湾からの高校生を招聘した国際科学発表会の開催を継続。評価アンケート結果の満足度100%達成 ・校内での科学英語のプレゼン活動を実施。</p>	<p>ア。TOEFL対策授業は約30名が受講。 iBTテストは41名が受験中。第1回では50点以上が4名、70点台が2名。第2回は50点台が5名。(コンピューターの不具合により受験を完了していないあり)  ・TOEIC参加者は約160名が参加し、土曜に講習を実施。ITPテストは3月10日に実施。本年度は、1年生を積極的に受験させた。結果、平均点は昨年を下回ったが、次年度必ずこの成果が出ると信じている。○  ウ。ディベート大会は他校の見学や審査員を招き、非常に充実したものとなった。○ エ。海外研修はどの事業とも募集を大幅に上回る応募者があった。3月に5つの事業があり、振り返りはこれからとなる。◎ カ。平成27年2月6日に国際科学発表会を実施。生徒による評価アンケートでは「内容の理解」の項目においては7割が肯定的、「企画の面白さ」、関心の増加、「取り組みの度合い」の項目においては9割が肯定的な回答をしている。夏期に英語による科学の集中講義を実施。また、12月には専門家を招いて英語のプレゼンテクニックを生徒に指導。春季休業中も日本の各地でプレゼンや研修を3事業実施。○</p>

<p>自律心の醸成 人権教育の観点で豊かな国際感覚の育成と</p>	<p>(1)ユネスコ・スクールの特色を生かす活動を強化 ア海外研修、国際科学発表会等の活動でユネスコの特色を発揮 イ 国際交流を通じて、体験的に共生意識を育む</p> <p>(2) マナーの向上と社会的規範意識の醸成 ウ 時間を大切にす る取り組みを行う。TPO に応じた標準服着用指導と頭髪指導を強化する。</p> <p>(3)情報発信</p>	<p>ア・ユネスコスクールとの国際交流校を積極的に拡大し、国際交流機会を増やす。大阪ユネスコネットの事務局校として、府立のユネスコスクールをリードし、今年度の世界大会を成功に導く</p> <p>イ・本校の帰国渡日生を支援する GL(グローバルライフ)委員会の活動を充実させる。</p> <p>・HR活動を中心に生徒の多様な人権学習を維持。1年での在日生のカミングアウト、本名使用の強い指導、LHR での人権講演会は年間 8 回を維持する。</p> <p>ウ・遅刻指導の充実に努める。</p> <p>・集合等の時間厳守に努める</p> <p>・本校は、様々な行事・交流会・講演会等を実施している。そのTPOに応じた標準服の着用指導と頭髪指導の浸透に努める。</p>	<p>ア・世界大会の成功</p> <p>イ・HRでの生徒人権研修を年間開催 8 回を維持。</p> <p>・教職員向け人権研修会の年間開催 3 回を維持。</p> <p>・教員研修の内 1 回は、新しいテーマとし、時代に応じたテーマで実施。</p> <p>・教職員の人権研修会の全員参加が目標。</p> <p>ウ・引き続き遅刻指導の強化、年間 3000 件台を目標</p> <p>・定期的な頭髪指導と、効果的な標準服着用指導を実施。</p>	<p>ア。11 月の岡山での世界大会は成功裏に終わり、本校生徒も 20 名程度参加、活躍した。◎</p> <p>イ。教職員向け人権研修は「体罰」に関する講演を実施。また校長より 2 度職員会議で講話を行う。◎</p> <p>ウ。遅刻指導を年度途中より見直し、10 月より新しい指導法を導入。一程度遅刻数の減少が見られたが、引き続きより効果的な指導体制を検討した。次年度より学校全体で取り組む体制を確立し、新しい指導を導入する予定。頭髪指導の内容も将来構想委員会で検討し、生徒の実態に応じた指導を検討。△</p> <p>(3)情報発信の重要さを強調</p> <p>・校長ブログだけでも年度末には、更新が 600 回を超える見込み。学校発信の重要文書も積極的に発信。海外研修は現地からほぼリアルタイムで情報を発信した。</p> <p>また中学校訪問は 80 校を超え、学校説明会もすべてのものをカウントすると 19 回になる。◎</p>
---------------------------------------	---	---	--	--